

## プログラムの活用法

### 4つのモジュール型プログラム

講習内容を4つ（4module）に分けています。連続した4時間の講習会が不可能な場合、分割して講習を行えるようにしています。

例えば・・・

- ・ 一般外来看護師の講習の場合、勤務終了後に毎週1時間だけ行う。
- ・ 新人教育として勤務時間内で、1時間だけ病棟を離れて行う・・・など。

### 必要物品

<必ず準備するもの>

- 成人蘇生人形（1グループに1体）
- AEDトレーナー（1グループに1台、電極パッド含む）
- BVM：バッグ・バルブ・マスク（1グループに1つ）
- ストップウォッチ ※パーサー（メトロノーム）機能つき（各グループに1個あると望ましい）

<オプションによって必要なもの>

- VF / Pulseless VT、Asystole、PEA がわかる図または、不整脈発生装置
- マニュアル除細動器
- 救急カート（背板付）
- 気管挿管器具一式
- フェイスシールド（各人に1個）
- 携帯式人工呼吸用フェイスマスク（ポケットマスク）（各人に1個）
- 消毒用アルコール綿（適量）
- 聴診器
- ベッド、ストレッチャー

### 講習会場、受講者人数

講習会場は、1グループ（受講者3～4名）あたり4～6畳程度の広さとし、グループ数に応じた大きさの部屋を確保する必要があります（会議室、体育館、教室など）。ベッドや人形を乗せるテーブル等が用意できない場合は、床の上での演習になるため、カーペットやマット等も必要です。

複数グループで実施する場合、隣接するグループのインストラクターや受講者の声あまり影響しない程度に間隔を取るよう配慮します。メモ程度の記述ができるホワイトボードや黒板等があると便利です。また、身体を動かすため、会場の空調設備を確認しておくことも必要です。

### **望ましいインストラクターの割合**

1 グループ、多くても 2 グループに 1 名、インストラクターの配置が理想ですが、何らかの心肺蘇生講習を受けたことがある者が、知識・技術、プログラムを熟知した上、インストラクターアシスタントを行うなど、アレンジすることも可能です。

プログラム中で電流が流れる除細動器を使用する場合は、事故が起こらないよう取り扱いに注意が必要です。また、胸骨圧迫は思いのほか体力を要するため、受講者にとって無理の無いように配慮が必要です。安全面にも十分に目が行き届くよう、インストラクターの人数を確保します。

### **インストラクターの条件**

心肺蘇生法関連団体のインストラクター、救急看護に精通した看護師、認定看護師や専門看護師、診療看護師など、心肺蘇生法講習に精通している者。